

平成30年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

【めざす学校像】

- 校風・校是「自由と創造」「日新日進」のもと、生徒一人ひとりが自分の色を輝かせ、全体で虹の架かる学校
- 将来の「大阪」とグローバル化に対応する人材と「大阪の教育」をリードする教員が育つ学校
- 生徒・保護者・地域住民から信頼される学校

【生徒に育みたい力】

- 強靱な知性・みずみずしい感性・品格ある人間性
- 確かな学力（自己実現のための学力、知的好奇心、探究心 等）
- 生きる力（客観的事象分析・問題解決能力、意見表明・プレゼンテーション能力 等）
- 豊かな心（生命・人権の尊重、規範意識、異文化理解、多文化共生 等）
- 社会参加力（社会参加、社会貢献 等）

2 中期的目標

1 確かな学力を踏まえつつ、高い志を育み、進路実現をめざす取組みの推進

(1) 生徒のもつ学力を最大限に引き出す

ア 魅力ある授業の実施

効果的な補助教材の作成、教員の指導技術の一層の向上に努めるとともに、平成30年度に全教科で到達目標を明確にしたシラバスを完成させ、生徒に対して明確な道標を提供する

また、新学習指導要領や大学入試改革を見据えて、2019年度までに、いわゆる「アクティブ・ラーニング」と大学進学の高津を両立させた「高津授業メソッド」を完成させ、2020年度以降につなげる。

*生徒向け授業アンケートの項目8・9（内容に興味・関心が持てた・知識や技能が身についた）の平均点（H29：3.24／4点満点）を平成30年度以降も3.2以上で維持する

イ 講習・補習の充実

放課後、土曜日、長期休業中等の講習内容と規模を充実させ、進路実現に向けた指導を行う

*難関国立大学（京都大、大阪大、神戸大）への合格者数（現役生＋既卒生／H29：63人）を、2020年度までに80人以上とし、一層の増加に努める

*国公立大学への現役生の合格者数（H29：132人）を、2020年度まで130人以上で維持し続ける

ウ 英語運用能力の向上

英語での授業を基本としつつ、外部試験等を活用し、英語コミュニケーション能力の目標を明確に示すことで、生徒の英語運用能力を総合的に高める

*12月実施予定の第2回GTECスコアレポートにおいて、2020年度までにCEFR B2：20人以上、B1：360人以上をめざす

*実用英語技能検定試験について、平成30年度には2級受験者のうち70%の合格をめざし、2020年度まで継続する

(2) 生徒の科学的素養を拡大・定着させ、探究心を高める

ア 文理学科「課題探究講座」（文系・理系）の内容のさらなる充実と全校生徒での共有

*文理学科2年生の「課題研究」に対する満足度をさらに高めるとともに、課題研究発表会への生徒参加数（H29：約450人）を、2020年度までに700人以上にする

イ 創造探究事業（高大連携）の内容の充実

*文理学科1・2年生の外部連携事業への延べ参加者数（H29：1,717人）を、2020年度まで1,000人以上で維持し続ける

ウ 海外の科学先進校等との交流の推進

海外の科学先進校等との交流日数を増やすとともに、共同研究や共同発表会等を実施するなど、交流内容をさらに充実させる

*交流先の拡大を図るとともに、交流日数（H29年度：12日）について2020年度まで10日以上を維持する

(3) 進路指導をさらに充実させる

ア 自己実現に向けた体験型進路学習（職場訪問、大学研究室訪問）の充実

1年生は、望ましい職業観・勤労観を育成することを目標に、訪問時のインタビューの精度を高めるとともに、プレゼンテーションの質的向上を図る

2年生は、大学における学問・研究に対する理解促進を目標に、生徒同士が学んだ内容について実施するポスターセッションの質的向上を図る

*1・2年生とも訪問先（H29：1年生63カ所、2年生52カ所）を、2020年度まで各50カ所以上、生徒満足度（H29：95%）を90%以上で維持する

イ 3年間を見据えたキャリア教育の充実

学校として確立した進路指導方針（高津進路プログラム：KSP）に基づき、学年の進路指導ホームルームや進路説明会をより系統的に計画・実施する

*学校教育自己診断の進路指導への満足度（H29：生徒83%・保護者80%）を、2020年度までにともに80%以上で維持する

2 スクールアイデンティティに基づき、豊かな心の育みと規律・規範の確立

(1) 人権尊重と生徒の社会体験活動の促進

*学校教育自己診断の、人権に関する指導に対する肯定率（H29：生徒85%・保護者83%）を、2020年度までに、ともに85%以上に引きあげる

*部活動参加生徒による「高津キャラバン隊」の実施クラブ率（H29：100%）を、2020年度まで90%以上で維持し続ける

(2) 規律・規範意識の向上

*年間の遅刻者総数（H29：2,472件）を、2019年度までに2,000件以下とし、維持する

(3) 生徒の自主的活動の活性化（部活動、生徒自治会活動）

*部活動加入率（H29：86%）を、2020年度まで85%以上で維持し、一層の増加に努める

*生徒向け学校教育自己診断の自治会活動に対する肯定率（H29：66%）を、2020年度までに70%以上に引きあげる

(4) きめ細やかな保健指導と教育相談体制の充実

*生徒向け学校教育自己診断の保健室利用、教育相談に対する満足度（「わからない」を除く／H29：83%）を、2020年度まで80%以上で維持し、一層の向上に努める

3 教職員の資質向上と学校運営体制の確立

(1) 教科指導力の向上

*生徒向け授業アンケートの全項目平均値（H29：3.24／4点満点）を、2020年度まで3.2以上で維持し続ける

(2) 研修の充実

*教員向け学校教育自己診断の校内研修に関する肯定率（H29：85%）を、2020年度まで80%以上で維持し続ける

(3) ミドルリーダーの育成と経験の少ない教員のさらなる資質向上

*教員向け学校教育自己診断のミドルリーダー育成に関する肯定率（H29：77%）を、2020年度まで75%以上で維持し続ける

(4) 学校の組織的運営

*教員向け学校教育自己診断の各分掌や学年・教科等の円滑な連携等に対する肯定的意見（H29：54%）を、2020年度までに65%以上とする

(5) ICT活用ならびに実験・実習、体験的な教科指導の充実、校務の効率化及び情報共有

*生徒向け学校教育自己診断の主體的・対話的で深い学びに対する満足度（H29：93%）を、2020年度まで90%以上で維持し続ける

(6) 地域に開かれた学校づくりの推進

*生徒による社会体験・貢献活動（ボランティア講座、支援学校との交流、部活動参加生徒によるキャラバン隊 等）をさらに活性化させる

(7) 社会全体の「働き方改革」の流れを踏まえた、(校内)安全衛生委員会機能のさらなる向上

*教職員向け学校教育自己診断の「教育活動に関する悩みや疑問の気軽な相談」についての肯定率(H29:85%)を、2020年度まで80%以上で維持する

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成30年12月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力をふまえて、高い志をはぐくみ、進路実現をめざす取組み	<p>(1)生徒のもつ学力を最大限引き出す ア. 魅力ある授業の実施(「高津授業メソッド」づくり(STAGE 2))</p> <p>イ. 英語運用能力(四技能)の向上</p> <p>(2)海外の科学先進校等との交流促進 ア. 交流対象校の拡大と交流日数・内容の充実</p> <p>(3)進路指導をさらに充実させる ア. 体験型進路学習の一層の充実</p>	<p>(1) ア. 新学習指導要領や大学入試改革を見据えて、平成29年度に立ちあげた、「主体的・対話的で深い学び」の推進と大学進学実績の両立を可能とする「高津授業メソッド」の確立をめざし、担当部署を中心に具体的な取組みを推進する。(発展)</p> <p>イ. 1・2年生を対象に、GTEC、実用英語技能検定試験等の受験を促進する。(新規・充実)</p> <p>(2) ア. 交流対象校を増やす(マレーシアを予定)とともに、より継続的かつ双方向的な交流へと充実を図る。(充実)</p> <p>(3) ア. 総合的な学習の時間を活用し、7月と10月に実施する体験型進路学習を通して、進路に対する意欲を高める。(継続・発展) 1年生「職場訪問」 2年生「大学研究室訪問」</p>	<p>(1) ア. 教員向け学校教育自己診断の「高津授業メソッドの推進状況」に関する項目の肯定率(H29:93%)を90%以上で維持する。</p> <p>イ. 12月実施予定の第2回GTECスコアレポートにおいて、CEFR B2:20人以上、B1:360人以上をめざす。また、実用英語技能検定試験2級受験者のうち70%以上の合格をめざす。</p> <p>(2) ア. 交流先の増加(マレーシアを予定)、参加生徒の満足度90%以上とする。</p> <p>(3) ア. 生徒向け学校教育自己診断での体験型進路学習に対する満足度(H29:95%)を90%以上で維持する。</p>	
2 豊かな心のはぐくみと規律・規範の確立	<p>(2) 規律・規範意識の向上 ア. 基本的な生活習慣の定着</p> <p>(3) 生徒の自主活動の活性化 ア. 生徒自治会活動のさらなる活性化</p> <p>(4) ア. 保健室利用、教育相談体制の充実</p>	<p>(2) ア. 教員間で生徒指導方針を共有し、挨拶の励行と遅刻者数の減少に取り組む(継続)</p> <p>(3) ア. 昨年度分割実施に踏み切った記念祭(文化祭・体育祭の一括実施)に関して、引き続き、教職員と生徒が一体となって実施体制及び運営体制を整理し、新たな伝統創生をさらに進めることで、本校ならではの自治会活動のさらなる活性化を図る。(継続・充実)</p> <p>(4) ア. 支援や配慮を要する生徒対象に、スクールカウンセラーによる助言等の機会を通して、生徒及び保護者の悩みの解消に努める。(継続・発展)</p>	<p>(2) ア. 遅刻者数(H29:2,472件)を2,000件以下にする。</p> <p>(3) ア. 行事後の生徒の満足度(文化祭・体育祭の平均H29:97%)を95%以上で維持する。 ・生徒向け学校教育自己診断の自治会活動に対する肯定率(H29:66%)を70%以上にする。</p> <p>(4) ア. 生徒向け学校教育自己診断の保健室利用、教育相談に対する満足度(H29:83%)、保護者の学校への相談に対する満足度(H29:83%)を、ともに80%以上で維持する。</p>	

<p>3 教職員の資質の向上と学校運営体制の確立</p>	<p>(1)教科指導力の向上 ア.教科指導力の向上</p> <p>(3)ミドルリーダーの育成、経験の少ない教員の資質向上</p> <p>(7)安全衛生委員会の機能向上</p>	<p>(1) ア・教員間の授業交流の促進、研究授業・協議を一層活性化させ、さらなる授業力向上に努める。(継続・充実) ・生徒による授業評価(年2回)や授業公開等を実施し、その結果を教員・教科にフィードバックし、授業改善に生かす。(継続)</p> <p>(3) ア・より効果的・効率的な業務遂行が可能となる、本校らしいヒエラルキーを構築し、計画的なミドルリーダー育成に努める。(継続・充実)</p> <p>(7) ア・「働き方改革」の流れを念頭に、校内規約に基づき、教職員の安全及び健康の確保、ならびに快適な職場環境の形成の促進に努める。(継続・充実)</p>	<p>(1) ア・生徒授業アンケート1～9全質問の平均値(H29:3.24)を3.2以上で維持し、さらなる向上に努める。</p> <p>(3) ア・教員向け学校教育自己診断における、ミドルリーダーの育成等に関する肯定率(H29:77%)を75%以上で維持する。</p> <p>(7) ア・教職員向け学校教育自己診断における「教育活動に関する悩みや疑問の気軽な相談」に対する肯定率(H29:85%)を80%以上で維持する。</p>	
----------------------------------	---	---	--	--